

遠江総合高校マッチングフェスタで自衛隊の魅力を紹介



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・野口貴志1等空尉）は4月20日（水）、森町総合体育館森アリーナ（周智郡森町）で行われた「遠江総合高校マッチングフェスタ」に参加した。

これは、地元企業や大学・専門学校等の魅力をそれぞれの担当者が生徒に直接紹介することで、職業や進学に対する意識を高め、今後の進路選択の指針を示すため同校が主催したものだ。

静岡県内外から学校・企業等合わせて約90組が参加し、袋井所からは中島史史1等陸曹と福鳥淳1等海曹が参加した。

会場ではビニールシートの設置や換気など新型コロナウイルスウィルス感染予防策が行われ、3年生206人がそれぞれ興味のあるブースを訪れた。

自衛隊ブースには8人の生徒が訪れた。生徒に自衛隊のイメージを聞いたところ、「体力があつてしっかりしている」「訓練が厳しい。ほふく前進や戦闘訓練以外にどういったことをしているのかわからない」といった率直な意見が聞かれた。

中島1曹は、厳しい場面はあるが任務を完遂するため必要であり、自分も仲間とともに困難を乗り越えたこと、自衛隊には幅広い職種があり、多くの人に適する仕事があることなどを伝えた。

また、記憶力を試すミニゲームなども行い、楽しみながら自衛隊の仕事を知ることができた場を作った。

説明を聞いた生徒は「警察官を目指していますが、自衛隊の中にも警察に似た仕事があることを知り、興味がありました」と感想を話していた。

袋井所は、今後も説明会等に積極的に参加し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努めていく。

卒業生が母校で学生に自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所（所長・河野隆准陸尉）は、4月21日（木）と22日（金）、大原法律公務員専門学校静岡校（静岡市）において「職業説明会」を行った。

これは、公務員を目指す同校の学生に対して、自衛隊の仕事内容や職業としての魅力、採用試験に関するなどを説明するもので、学生や教員73人が参加した。

当日は、昨年陸上自衛隊に入隊し、東部方面会計隊（東京都練馬区）で勤務する同校卒業生の望月蓮花1等陸士が会場に駆けつけ、学生の時に行っていた試験対策や入隊後の教育隊での生活から部隊配置までの流れ、現在行っている会計科の業務内容などを紹介した。

望月1士は、最後に「多くの方が想像しているよりも自衛隊は楽しく、働きやすい職場環境が整っています。不安を感じている人もぜひチャレンジして、合格を勝ちとってください」と後輩にエールを送った。

参加した学生からは「自衛隊にこんなに多くの職域があることを知って驚いた」「体育会系の印象が強かったけれど、先輩の話聞いてイメージが変わった」といった感想を聞くことができた。

静岡所は、今後もこのような機会を活用して自衛隊の魅力をもっと深く知ってもらい、学生の進路の指標となれるように努めていく。

模型ファン待望 3年ぶりの静岡ホビーショーで自衛隊紹介



自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所（所長・河野隆准陸尉）は、5月14日（土）と15日（日）の2日間、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「第60回静岡ホビーショー」において広報活動を行った。

これは、日本のプラモデルメーカー80社2団体が「模型の世界都市」静岡市に集結するイベントで、一般来場者への公開は3年ぶり。

当日は、陸上自衛隊富士学校機甲科部（駿東郡小山市）、陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）、海上自衛隊横須賀地方総監部広報推進室（横須賀市）の支援を受け、16式機動戦闘車をはじめとする装備車両がずらりと並び、多くの来場者の視線を集めた。

静岡所は、車両展示スペースに隣接する展示室内に広報ブースを開設した。入り口に陸・海・空自衛官の制服と、その胸元に輝く防衛功労章、防衛記念章、各種き章などを展示し、来場者をひきつけた。

また、自衛隊が保有する装備品の模型や、災害派遣活動など自衛隊の活躍をまとめたパネルを展示したほか、「触れる展示」として本物のF4戦闘機で使用されていた操縦桿の展示と通信部隊で使用する70式野外電話機の通話体験を行った。

広報ブースには自衛官採用制度説明コーナーも併設し、広報官が自衛官の採用種目や仕事内容などを紹介するとともに、来場者の疑問や質問に答えた。

来場者からは「自衛隊について詳しく知ることができた」「子供が将来自衛官になりたいと言っているので、今日話を聞くことができて良かった」といった感想が聞かれた。

静岡所は、今後も多くの人に自衛隊の存在を身近に感じてもらうため、所員一丸となって広報活動に邁進していく。